

宝のえにしに平八幡

(市内にある指定文化財を紹介します)



あか どう ばん かけほとけ
赤銅板懸仏

所在地：西根寺田15-127(西根歴史民俗資料館)
寸法：直径28cm
指定年月日：昭和53年8月31日(旧西根町指定)



てつ ぞう ぼ さつ りゅうぞう かけほとけ
鉄造菩薩立像懸仏

所在地：打田内70-2
寸法：直径25cm
指定年月日：平成15年1月31日(旧安代町指定)

懸仏とは、銅や鉄などの円板に仏像を鑄たものを付けたり浮き彫りにしたりしたもので、寺社の堂内に掛けて礼拝するための法具です。鎌倉・室町時代に盛んに信仰されました。

赤銅板懸仏は、荒木田八幡宮の別当を代々務めた畠山家で保存されたもので、二仏二神坐像で、その作風から室町時代のものでしょうか。上部の2体は蓮華座に鎮座する如来像、下部の2体は烏帽子を被り弓と鎗矢が配された八幡神と思われる神像です。

鉄造菩薩立像懸仏は、曲田正観世音神社に奉納されているもので、観音菩薩を鑄出しており、神様と仏様が一緒に祭られていた明治以前の素朴で純粋な民間信仰を表しています。

《参考文献》安代の自然と文化(岩手県立博物館1987年)、西根町史上巻(西根町)

【広告】この広告は、広告主の責任において市が掲載しているものです。広告の内容について市が推奨などをするものではありません。

企業広告スペース